

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 8月 18日
調査実施の時間	開始 10時 35分 ~ 終了 15時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム やくしま (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u> 氏名 <u>水流 涼子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u> 氏名 <u>永野 晋平</u> ヒアリングを行った職員数 2名

※記入方法

●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

●外部評価項目は30項目です。

○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。

○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4678300106号		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホームやくしま		
所在地	鹿児島県熊毛郡屋久島町原字馬石ノ下9 1 4番地2 3 (電話) 0997-47-2010		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年8月18日	評価確定日	平成20年9月12日

【情報提供票より】(20年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	日額100 円
敷金	有(60,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	180 円	昼食 250 円
	夕食	290 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	8名	男性 0名	女性 8名
要介護1	5名	要介護2	1名
要介護3	2名	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 84.88歳	最低 71歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	屋久島徳州会病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関ホールからモッコム岳を眺めることができるホームである。入居者がその人らしく自由に過ごせるように取り組み、「できること、したいこと」を活かした支援をしている。地域の診療所と気軽に相談・連携ができる関係が構築されている。入居者が以前通っていた通所介護事業所への訪問などの馴染みを大切にされた支援もされている。
--

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の見直しや市町村との連携、同業者との交流は改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員で前回評価と現状を確認しながら、一項目ずつ協議し、改善への取り組みをしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や地域住民・行政など会議への参加を呼びかけているが、開催はまだされていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に必ず声をかけ、相談しやすい雰囲気づくりに配慮している。家族の意見を傾聴し互いに話し合い、職員間でも協議しながら意見をできるだけ反映させるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学校の運動会や地域の夏祭り・文化祭の見学・地域の通所介護事業所への訪問交流などしている。読み聞かせのボランティアの定期訪問がある。地域の一員として、事業所側から地域活動や地域住民との関わりを積極的に働きかけていく取り組みはこれからである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度の外部評価を活かし、職員で協議し開設当初からの理念を見直している。地域での馴染みの暮らしや家族と地域との関わりを大切にしていこうこと等を目指したものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し毎日唱和することで、理念の共有を図っている。家族・地域との関わりや残存能力を活かす支援など、日々、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の運動会や地域の夏祭り・文化祭の見学、地域の通所介護事業所への訪問交流などを行っている。読み聞かせのボランティアの定期訪問がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員で前回評価と現状を確認しながら、一項目ずつ協議し行なっている。評価を活かし、理念の見直しなどを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域住民・行政など会議への参加を呼びかけているが、メンバーが全員集まれる日程の調整がつかず、開催はまだされていない。	○	運営推進会議を早期に開催し、そこでの意見をサービスの質の向上につなげる取り組みに期待される。

グループホームやくしま

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは、行き来する機会がある。ホームの取り組みや課題点などを協議し、相談連携を図りながらサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や電話などで、本人の近況や健康状態など随時報告している。ホーム便りを発行し情報提供をしている。金銭管理は、出納帳の写しの送付や家族の訪問時など個々に応じた報告をしている。職員異動は文書を発行するなどしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に必ず声をかけ、相談しやすい雰囲気づくりに配慮している。家族の意見を傾聴し互いに話し合い、職員間でも協議しながら意見をできるだけ反映させるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、異動や離職を最小限に抑えるために働きやすい環境づくりに配慮している。職員が代わる場合は、挨拶や引継ぎを充分行い、入居者への影響が少なくなるように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症やケア方法などの法人内の研修に交替で参加している。外部研修にもできる限り参加している。研修後は、報告書や伝達研修などで職員間に情報の共有が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーの連絡協議会や関連施設、同業者などと連携・交流など図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人との事前面談、見学や体験入所を勧め、本人が納得して入居できるよう配慮している。本人・家族・関係者等とよく相談し、状態を把握しながら信頼関係が早く築けるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で、入居者に、できることやしたいことを無理なくしてもらっている。職員は、昔の話や調理方法など入居者から学び、共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりにゆっくりと寄り添い、傾聴することを大切にしている。言葉に言い表せないことなどは、日々、表情や行動を察知し、本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や職員の意見をもとに、アセスメントを作成している。また、本人、家族を含めた担当者会議を開いて、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、半年に1度の見直しを基本とし、3ヶ月毎のモニタリング評価をしている。申し送りや、個別の記録にて状況の把握・共有がされている。状況変化に応じた、随時の介護計画の見直しにも努めている。		

グループホームやくしま


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の意向や状況に応じ、通院支援や墓参り・出身地の夏祭りなどの馴染みの場所への訪問支援など、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。通院は基本的に家族対応であるが、意向や状況に応じて受診できるように支援している。家族と医療機関と情報の共有を図り適切な医療が受けられよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族には、入居前にホームの対応方針の説明をしている。状況に応じ、随時、本人・家族・医療機関と十分に協議し方針を共有している。		重度化や終末期に向けたホームの方針が分かるように、対応方針などを明記する取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	申し送り時や職員会議などで機会あるごとに、プライバシーや人格の尊重などの周知徹底を図っている。個人情報の取り扱いについても書類保管の徹底や申し送り時などの伝達方法等、留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは一応設定しているが、本人の意向や状況に応じて、それぞれのペースでできるだけ過ごせるよう努めている。		

グループホームやくしま

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や皮むきなどの下ごしらえ・下膳・皿洗いなど本人の意向や状況に応じて職員と共に行っている。入居者と職員は食事を一緒にしながら、楽しい食事になるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴について決めてあるが、本人の意向や状況に応じ、いつでも入浴できるよう支援している。また一人ずつゆっくりと入浴できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かし、洗濯物たたみ・掃除・皿洗いなどの力を発揮する機会がある。唄やパッチワーク・ドライブ・買い物・馴染みの場所への訪問など楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の意向や状況に応じ、散歩や買い物・ドライブ・馴染みの場所などへ日常的に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを当たり前の事として実践している。外出したい入居者には、職員が寄り添い外出し、本人が落ち着くまで繰り返し支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと消火・通報・避難などの訓練を実施している。夜間想定では、通報訓練を実施している。		災害時に昼夜を問わず避難できるよう、地域住民への協力を得られる働きかけや備蓄の準備について、取り組みが期待される。

グループホームやくしま

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、職員が入居者の希望を聞きながら、カロリーを考慮し作成している。また、食事摂取量や水分摂取量を把握している。本人の意向や状況に応じ、食欲がでる嗜好品や刻み・おかゆなどの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく、ゆったりとしており家庭的である。音や光にも配慮し、花やカレンダーなどにも季節感があり居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとタンスが、使いやすいよう配置してある。テレビ・ソファや使い慣れた小物などが持ち込まれており、入居者が落ち着いて過ごせる居室である。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。